



2016年11月期 第2四半期決算説明会

株式会社ラクト・ジャパン

2016年7月22日

1. 2016年11月期第 2 四半期業績
及び 2016年11月期予想 P. 2
2. 成長戦略と今期の取り組み P. 11
3. 会社概要 P. 20

1

2016年11月期第2四半期業績 及び 2016年11月期予想



2016年11月期第2四半期連結業績



(百万円)

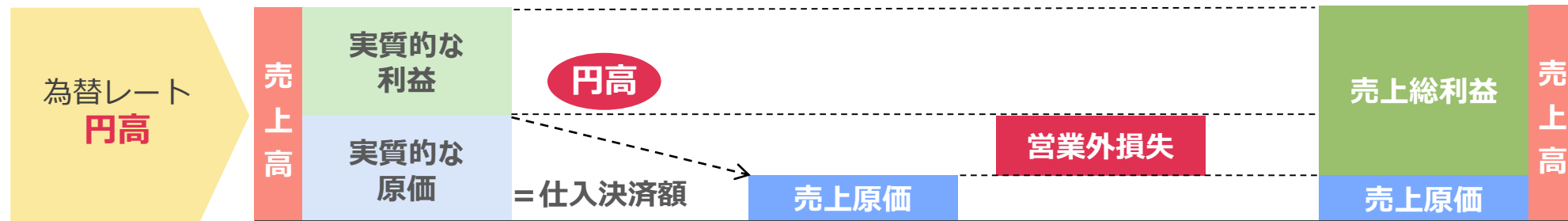
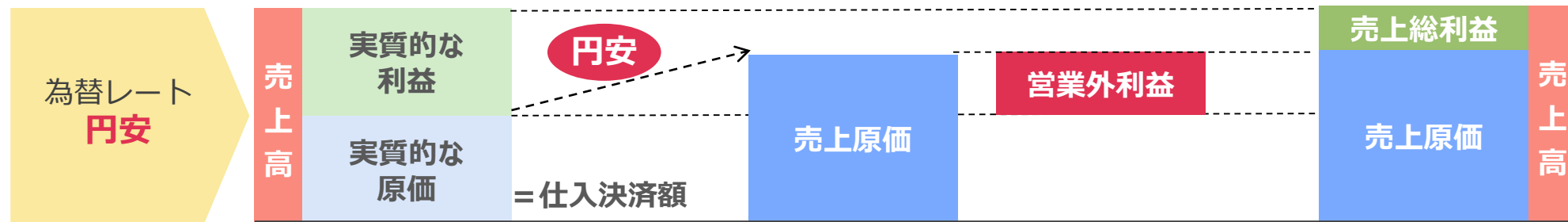
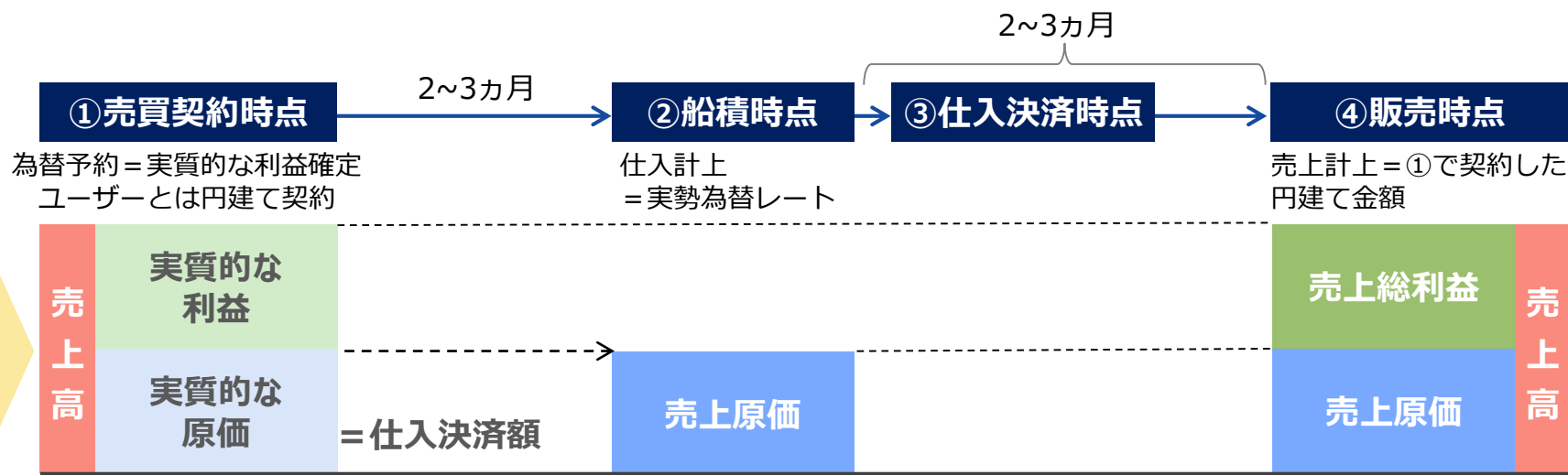
	15.11期 2Q実績	16.11期 2Q					
		実績	対前年度比期 増減額	対前年度比期 増減率	期初予想	対実績 差額	達成率
売上高	48,209	43,233	△4,976	△10.3%	40,930	2,303	105.6%
経常利益	627	447	△180	△28.7%	450	△3	99.3%
売上高経常利益率	1.3%	1.0%			1.1%		
翌期以降計上予定損益	▲194	274					
親会社株主に帰属する 当期純利益	378	270	△108	△28.5%	280	△10	96.4%
売上高当期純利益率	0.8%	0.6%			0.7%		
一株利益	96.5円	55.3円		△42.7%	57.3円	△2.0円	96.5%
為替レート：米ドル ：ユーロ	119.50 135.59	114.54 126.97					

* 2015.11期2Q実績の一株利益については、2015年2月25日付の株式分割を考慮。上記記載金額は前連結会計年度の期首に当該分割が行われたと仮定したものの。

* 各期末時点において、仕入決済が完了し、為替ヘッジにかかる為替差損益が計上されているものの、販売が翌期以降に行われるため、損益の計上が翌期以降に予定されている取引について「翌期以降計上予定損益」として記載しております。

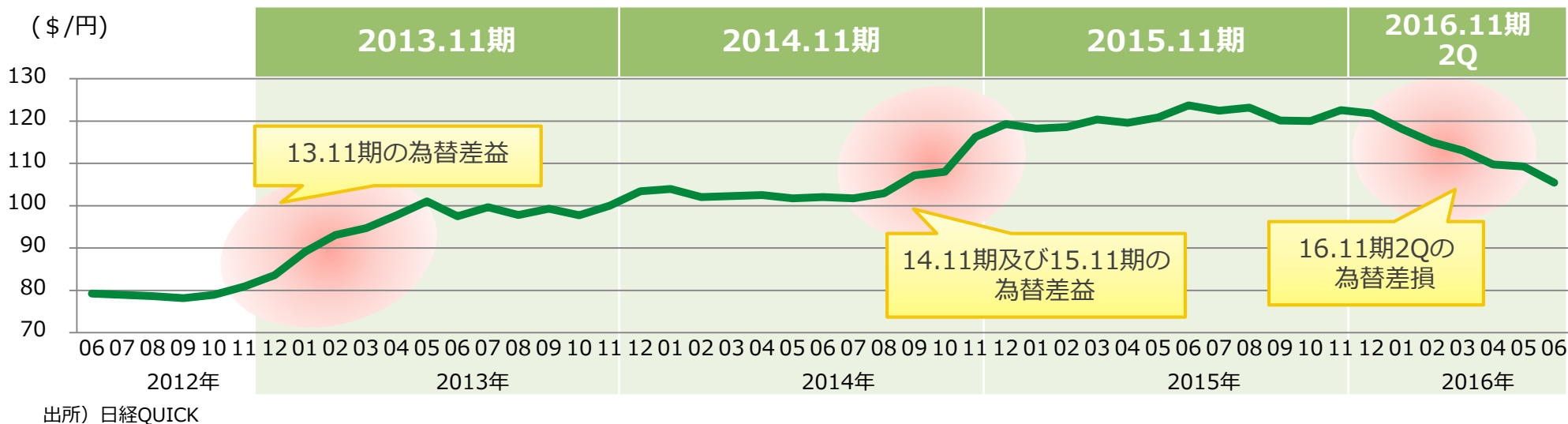
注) 財務数値の表示は端数切り捨て

売買取引のイメージ



為替差損益について

為替レートの推移（スポットレート東京市場終値）

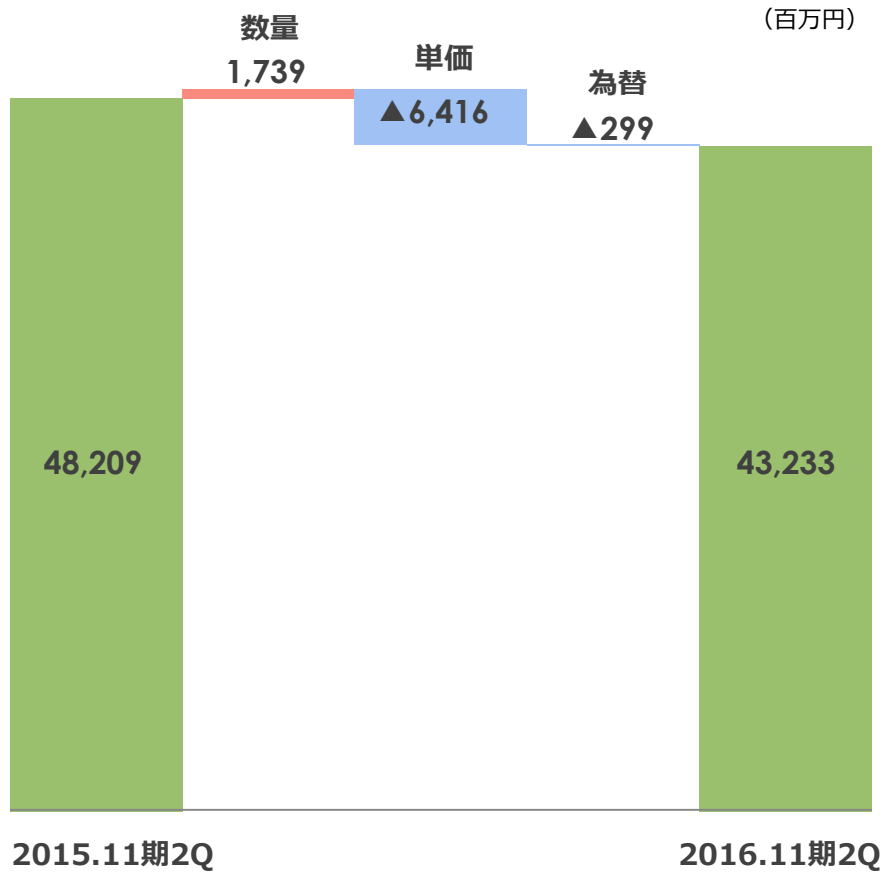


売上高および利益の実績（連結/百万円）

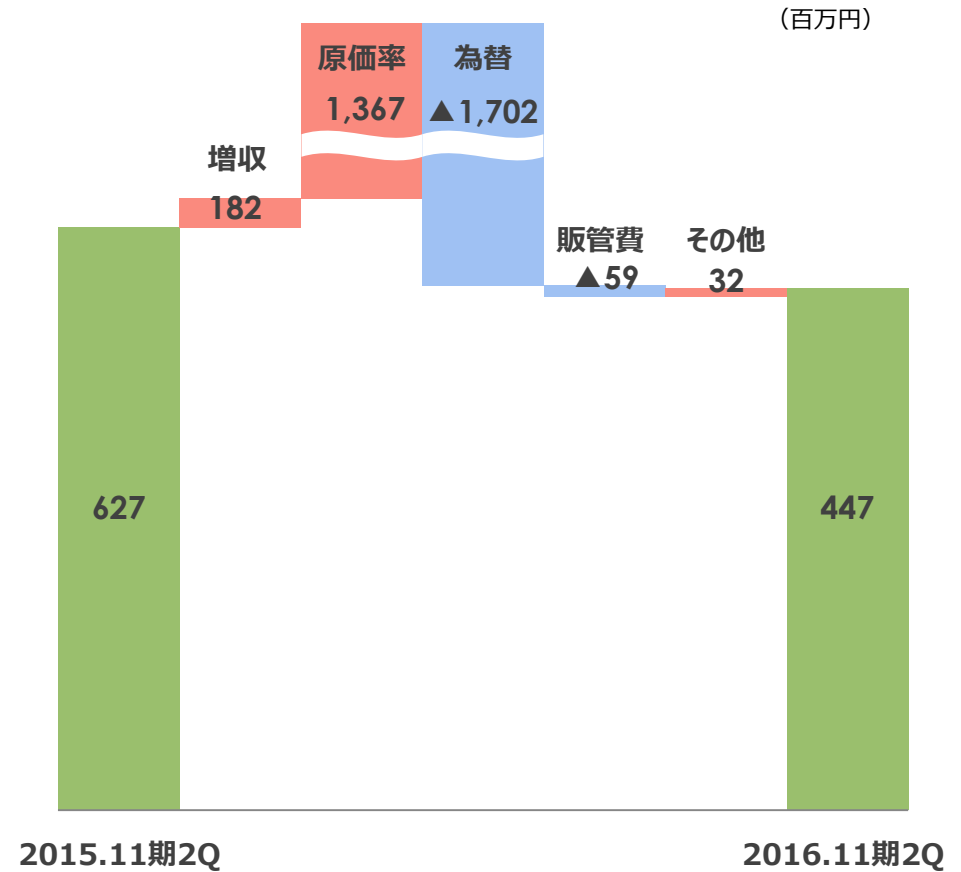
	2013.11期	2014.11期	2015.11期	2016.11期 2Q
売上高	75,942	96,549	98,000	43,233
売上総利益	3,258	4,258	3,648	2,806
営業利益	699	1,531	720	1,326
為替差損益	1,188	638	1,052	▲631
経常利益	1,669	1,653	1,343	447

売上高・経常利益の増減要因分析

売上高（連結）



経常利益（連結）



事業部門別売上高及び販売数量

(単位：百万円)

【事業部門別売上高】	2015.11期 2Q実績	2016.11期 2Q実績	増減額	売上高の増減要因
乳原料・チーズ	33,452	29,827	▲3,625	既存取引先への販売拡大や新規取引の取組みなどにより販売数量は拡大したものの、国際乳製品価格の低迷や円高の影響により売上高は減少
食肉加工品	7,278	7,655	377	前年同期に発生していた米国西海岸の港湾労働争議及び、豚の疾病(PED)の影響がなくなり、販売数量が増加
アジア事業・その他	7,480	5,750	▲1,730	- 国際乳製品価格下落により乳原料販売部門の販売単価が下落 - チーズ製造販売部門では、設備増強のためのリノベーション実施により一時的に生産数量が減少し、販売数量はほぼ横ばい

【部門別販売数量】	2015.11期 2Q実績(t)	2016.11期 2Q実績(t)	差異(t)	増減率
乳原料・チーズ	65,753	67,973	2,220	3.4%
食肉加工品	11,567	12,937	1,370	11.8%
アジア事業（乳原料販売）	17,890	16,993	▲897	▲5.0%
アジア事業（チーズ製造販売）	957	944	▲13	▲1.5%

貸借対照表

(百万円)

	2015.11期	2016.11期 2 Q	増減額
流動資産	36,763	34,864	▲1,899
受取手形及び売掛金	12,694	11,738	▲956
棚卸資産	18,496	15,666	▲2,830
固定資産	2,558	2,506	▲52
有形固定資産	697	648	▲49
無形固定資産	95	76	▲19
投資・その他の資産	1,765	1,781	16
資産合計	39,321	37,371	▲1,950
流動負債	15,099	11,749	▲3,350
有利子負債	5,601	4,572	▲1,029
固定負債	13,832	15,506	1,674
有利子負債	13,061	14,674	1,613
負債合計	28,931	27,256	▲1,675
純資産	10,390	10,115	▲275
負債・純資産合計	39,321	37,371	▲1,950

注) 内訳は主要項目のみ記載

主な増減要因

【売掛金の減少】

- ・乳原料価格の低下および円高の影響による販売価格の低下

【棚卸資産の減少】

- ・乳原料価格の低下および円高の影響による仕入価格の低下

【有利子負債(流動負債)の減少】

- ・営業CF改善による短期借入金の返済
- ・長期借入金約定返済の進捗

【有利子負債(固定負債)の増加】

- ・低金利下における長期借入金の増加

キャッシュフロー計算書

(百万円)

	2015.11期 2Q	2016.11期 2Q	増減額
営業活動によるキャッシュフロー	▲5,301	1,479	6,780
投資活動によるキャッシュフロー	▲316	▲153	163
財務活動によるキャッシュフロー	5,409	487	▲4,922
現金及び現金同等物の増減額	▲167	1,674	1,841
現金及び現金同等物の期末残高	3,032	5,706	2,674

主な増減要因

【営業CFのプラス】

- ・仕入単価の低下に伴う棚卸資産の減少ならびに販売価格低下による売掛金の減少等による運転資金の減少

【財務CFのマイナス】

- ・営業CFのプラスを有利子負債の返済に充当

2016年11月期 連結業績予想



(百万円)

	2015.11期 実績	2016.11期		
		予想	増減額	増減率
売上高	98,000	85,140	▲12,860	▲13.1 %
経常利益	1,343	1,080	▲263	▲19.6 %
翌期以降計上予定損益	34	—		
当期純利益	831	700	▲131	▲15.8 %
一株利益	197.87円	143.16円		▲27.6 %
一株配当	30.0円	31.0円		3.3%
配当性向	15.2%	21.7%		

2

成長戦略と今期の取り組み



■ 乳原料・チーズ

- 中国の輸入減少、ロシアへの輸出禁止措置の継続、欧州はじめ主要産地における生産量の増加などから、国際乳原料価格は引き続き軟調を見込む（単価↓）
- 国内生乳生産の増加、輸入原料に対する需要拡大が一服（数量↓）

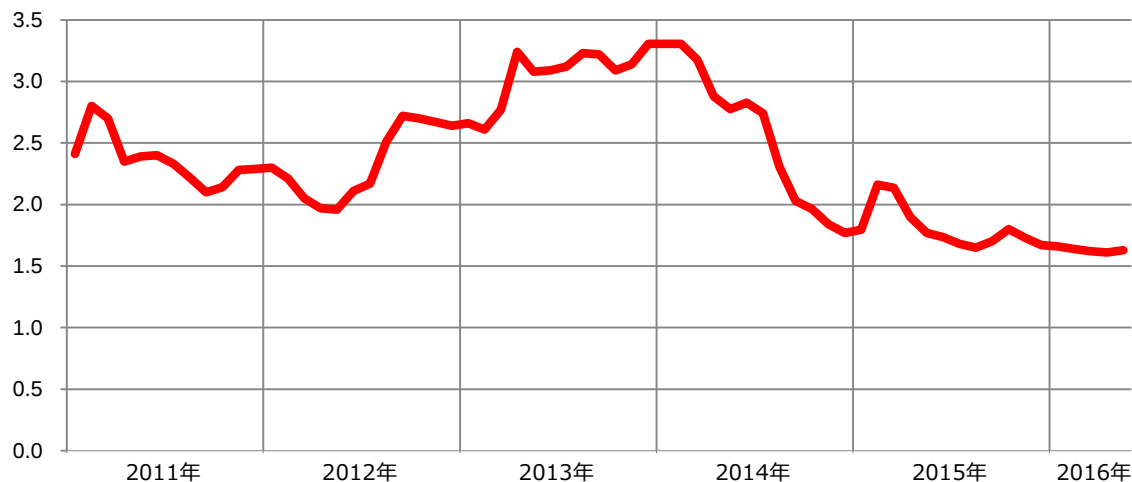
■ 食肉加工品

- 前年度までに発生した豚の疾病（PED）及び米国西海岸における港湾労働争議問題後の反動で需給に緩み。国内豚肉市況回復に遅れ。（単価↓／数量→）

■ アジア事業・その他

- タイ工場の稼働率向上によりチーズ製造販売部門の販売数量増を見込む（数量↑／利益率↑）

乳原料の国際市況（脱脂粉乳：オランダ公定価格 EUR/kg・工場前価格）

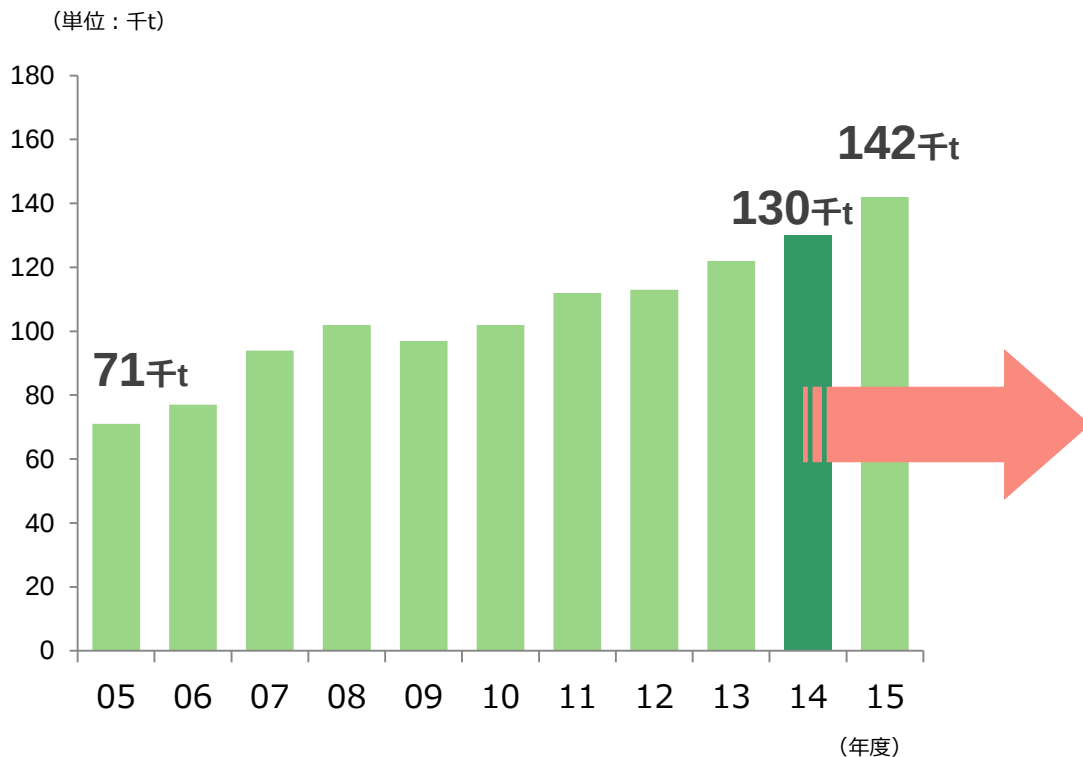


【部門別販売数量】

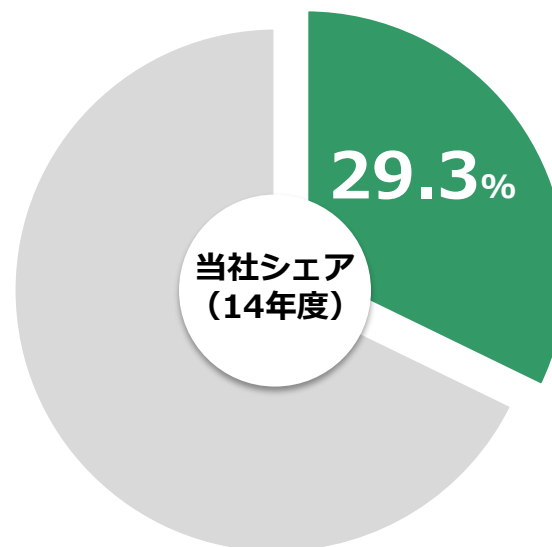
	2015.11期 2Q実績(t)	2016.11期 2Q実績(t)	差異(t)	増減率
乳原料・チーズ	65,753	67,973	2,220	3.4%
食肉加工品	11,567	12,937	1,370	11.8%
アジア事業 (乳原料販売)	17,890	16,993	▲897	▲5.0%
アジア事業 (チーズ製造販売)	957	944	▲13	▲1.5%

国内最大規模の乳製品商社 乳原料・チーズの取扱量はこの10年で倍増、輸入シェアは約30%

当社の輸入取扱量（乳原料・チーズ）



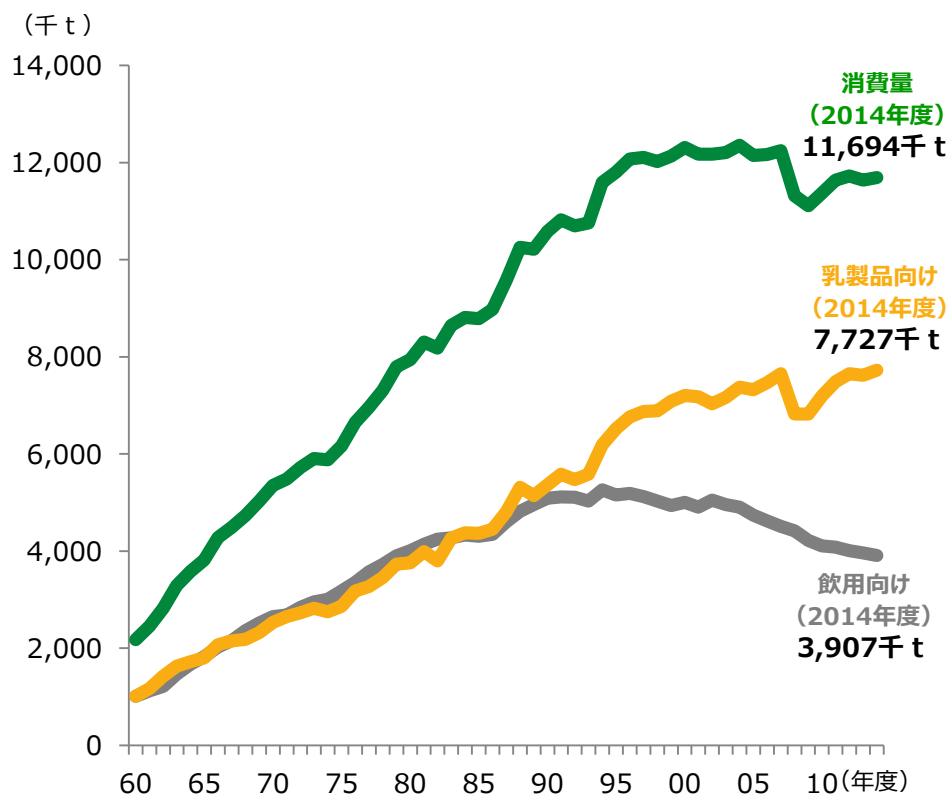
輸入乳製品に占める当社取扱いシェア



出所) 農水省「食糧需給表」を参照のうえラクト・ジャパン作成
輸入総量を固形換算し(係数0.1)シェアを計算

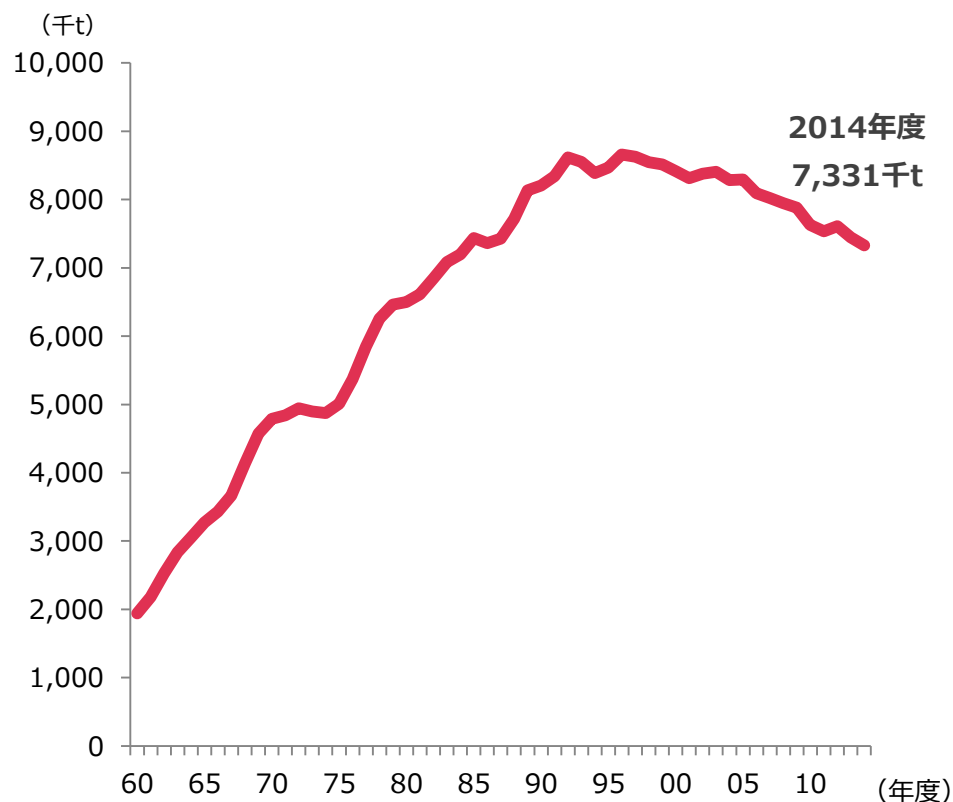
牛乳・乳製品消費量は乳製品向けを中心に高水準 一方、国内生産量は低下傾向で輸入原料への需要は旺盛

牛乳及び乳製品の国内消費量



出所) 農水省「平成26年度食料需給表」(概算値)より
注) データは生乳換算

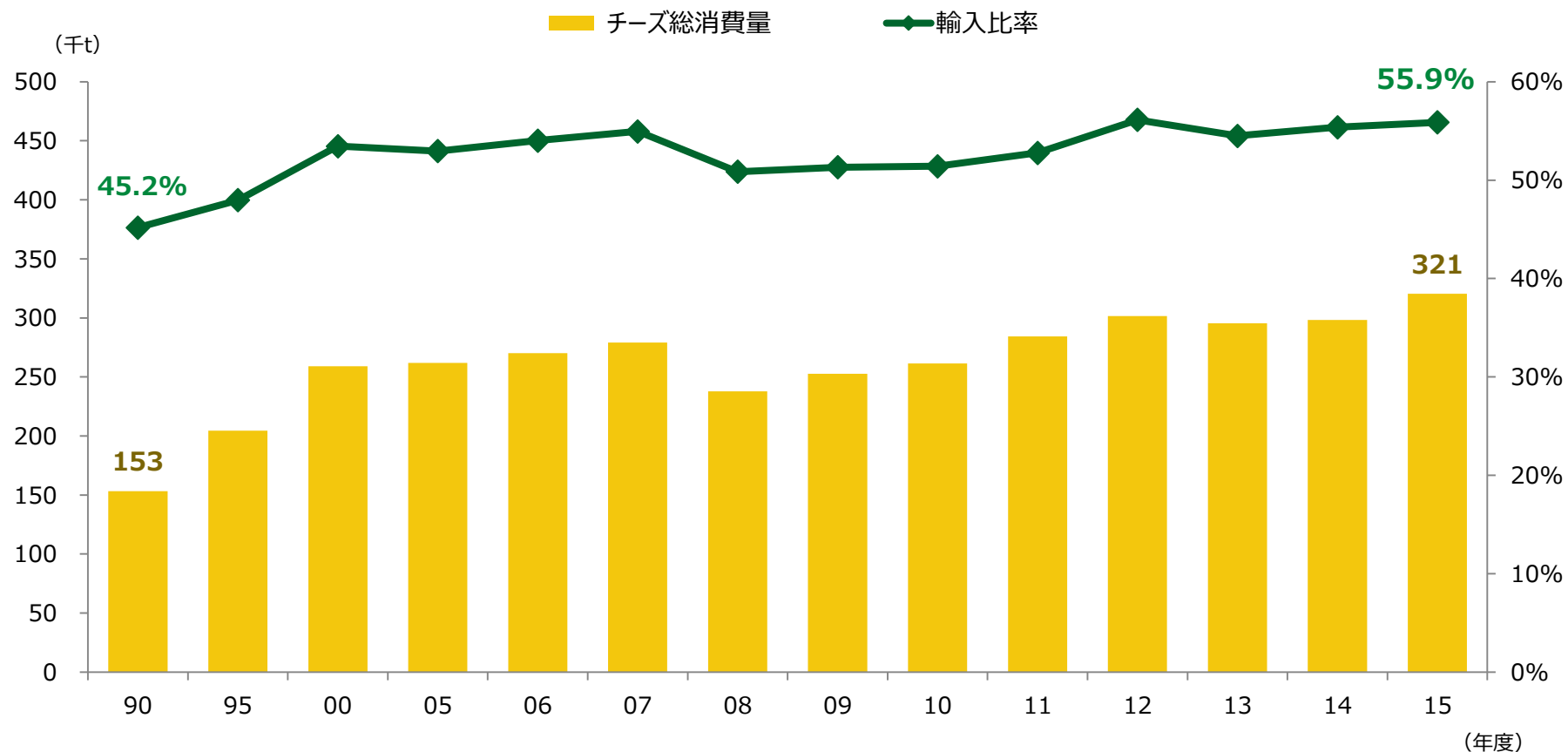
国内生乳生産量



出所) 農水省「平成26年度食料需給表」(概算値)より
注) データは生乳換算

チーズの国内消費量は増加傾向が継続、輸入比率も高水準が続いている

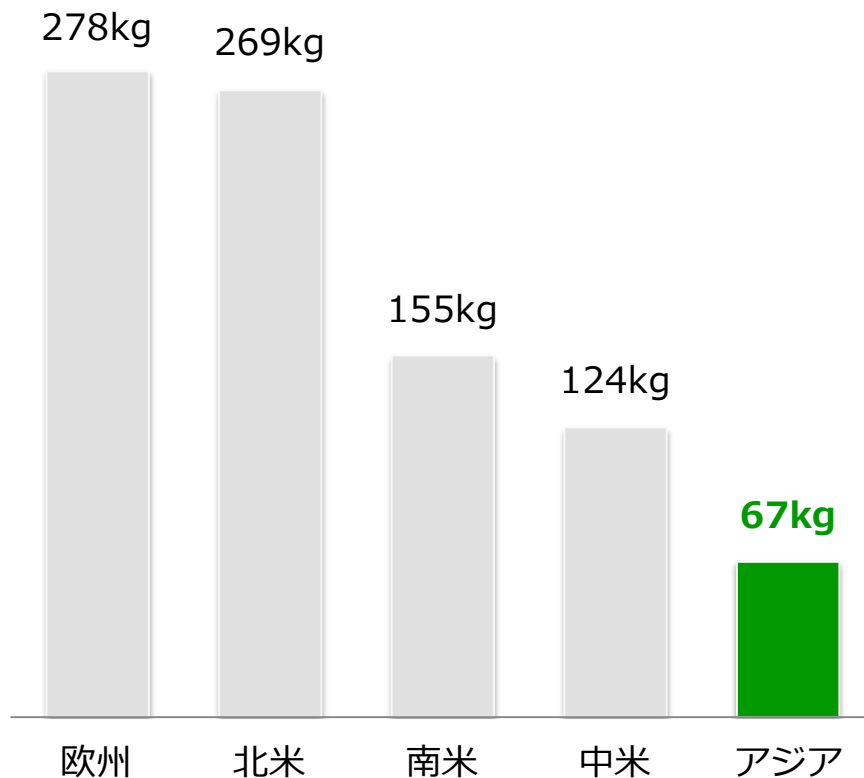
チーズの国内消費量



出所) 農水省「平成27年度チーズの需給表」(2017/6/10公表)より

アジアの乳製品市場は黎明期、今後の市場拡大余地は大きい 国内企業のほとんどは未進出

世界の年間乳製品消費量（kg/人、生乳換算）



出所) International Dairy Federation "The World Dairy Situation 2011"

年間チーズ摂取量比較

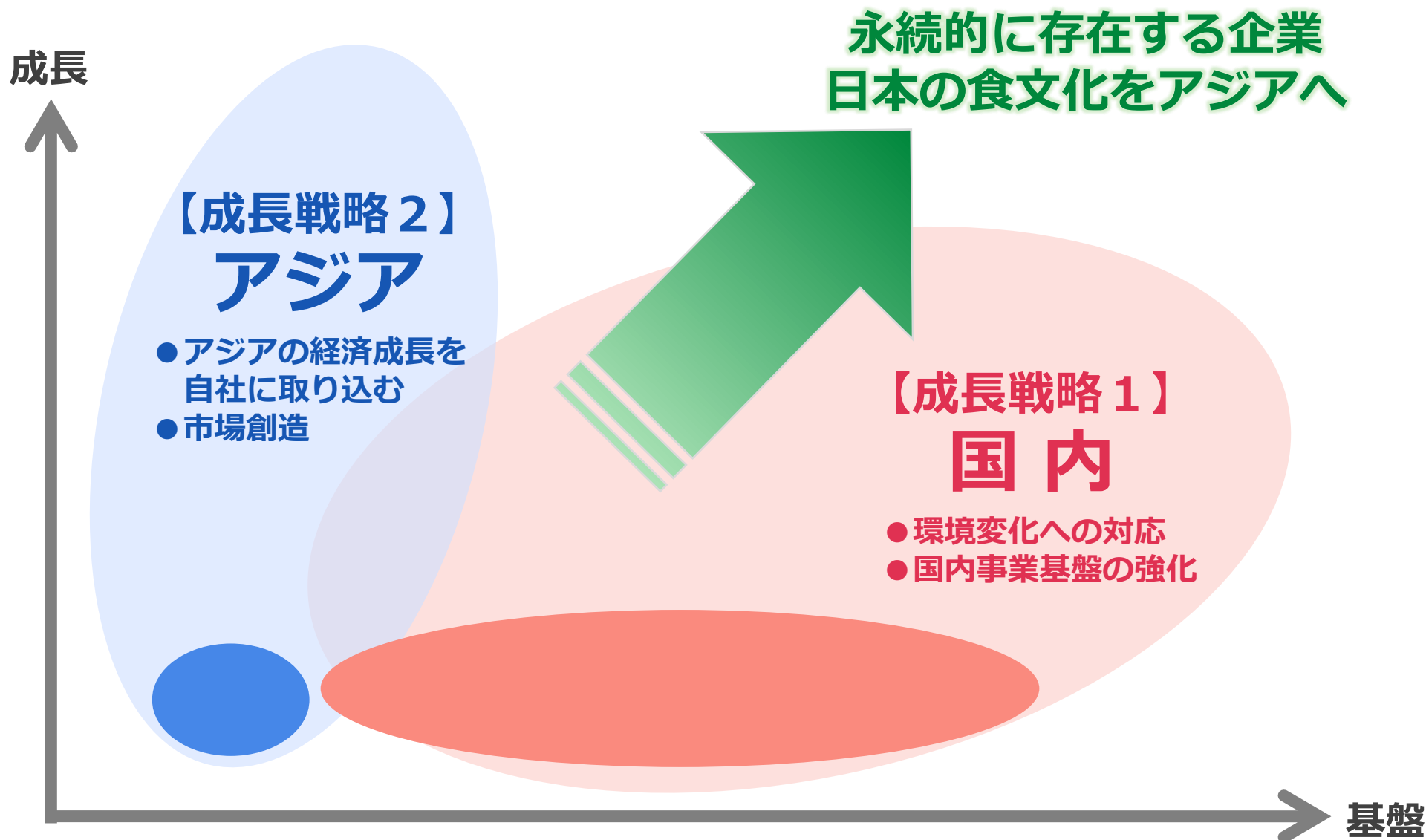
フランス : **25.9** kg/人

ドイツ : **24.3** kg/人

アメリカ : **15.4** kg/人

日本 : **2.3** kg/人

出所) International Dairy Federation "The World Dairy Situation 2014"



国内事業基盤の強化

輸入加工卵事業の本格化

乳製品事業の顧客に対するアイテム増

飼料原料事業の本格化

アジアでの市場創造と調達力拡充

チーズ加工事業の強化

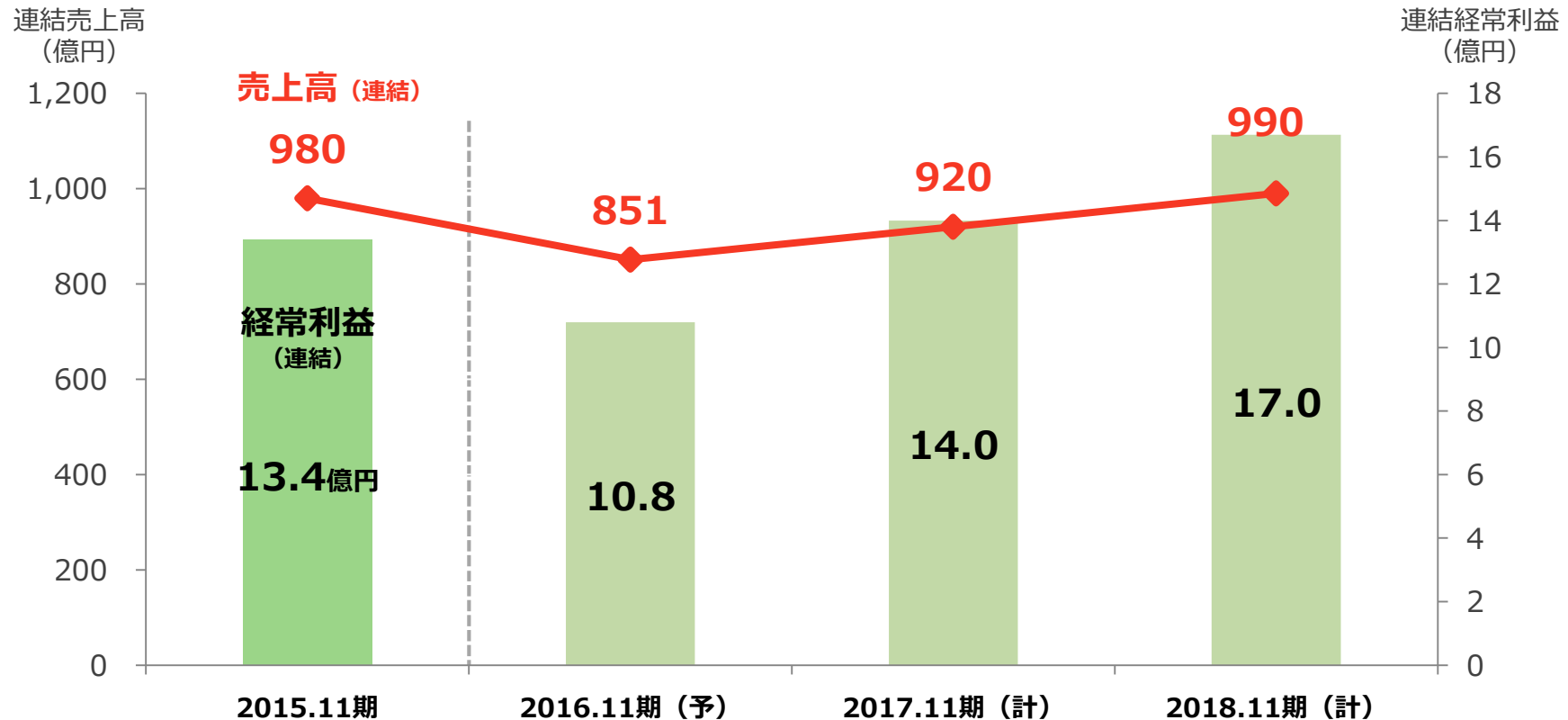
小売用アイテムの開発と販売を開始

サプライソースの拡充に向けた布石

オランダ事務所を現地法人化

(乳製品に加え、幅広い食品の取り扱いに向けサプライソースの開拓を本格化)

中期の経営目標（売上高・経常利益）



国内における取引拡大
（新規顧客の開拓、既存顧客の深掘り）

アジア生産拠点の黒字化
連結経常利益に寄与

アジア地域での
新規ビジネスの拡大

3

会社概要



1

乳原料・チーズの専門商社
フルラインの乳原料を取り扱うリーディングカンパニー

2

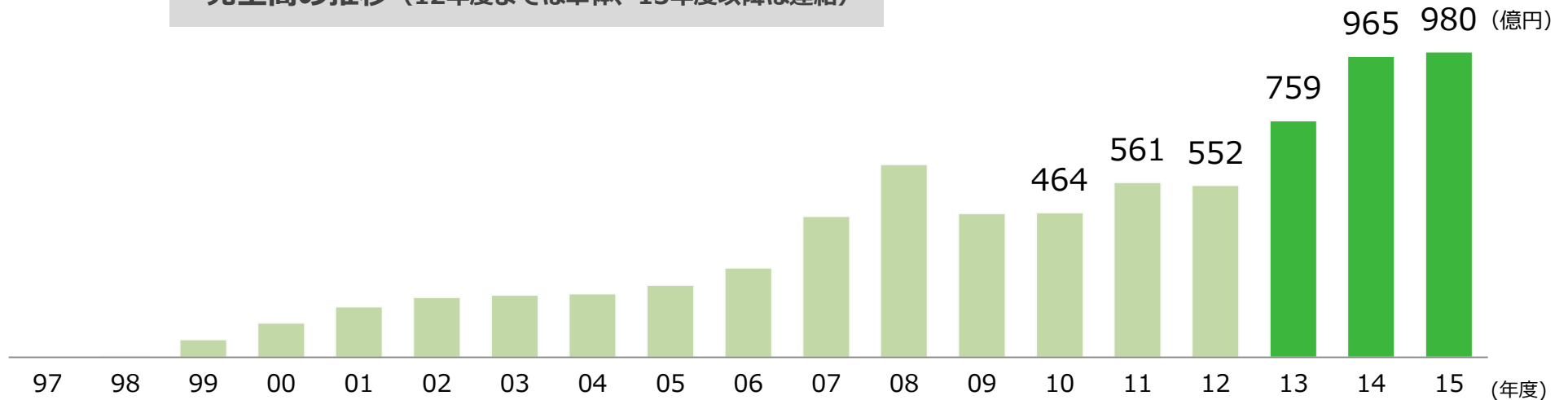
国内随一の規模と調達力
独立系専門商社ならではのビジネスモデルにより差別化

3

黎明期にあるアジアの乳製品市場を開拓
一段上のステージへとさらなる成長を目指す

乳原料・チーズをベースに業容を拡大しながら着実に成長

売上高の推移（12年度までは単体、13年度以降は連結）

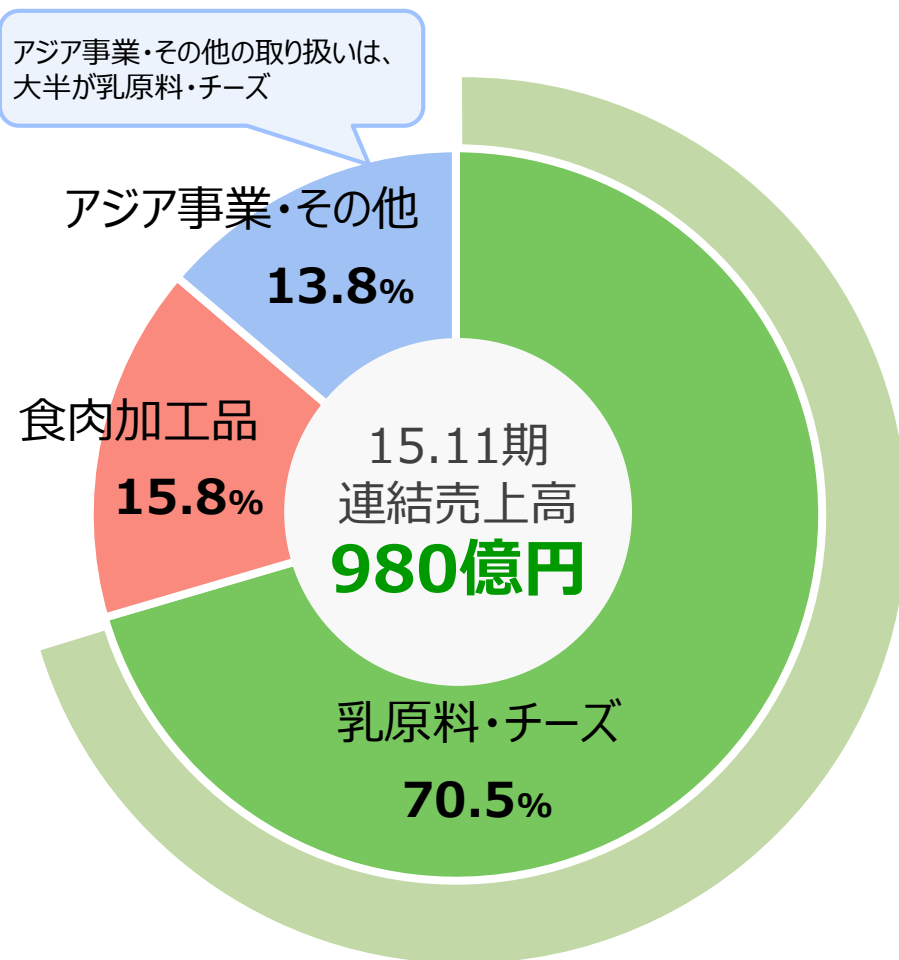


1998年5月：株式会社ラクト・ジャパンを設立、業務を開始

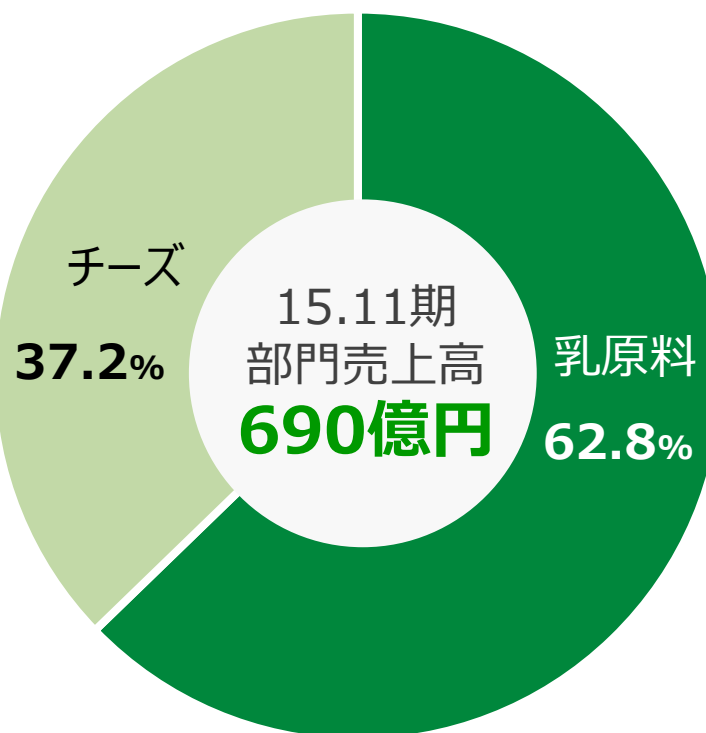
1998年11月：シンガポール駐在員事務所を開設

2005年3月：食肉加工品事業に参入
生ハム・サラミの輸入販売を開始

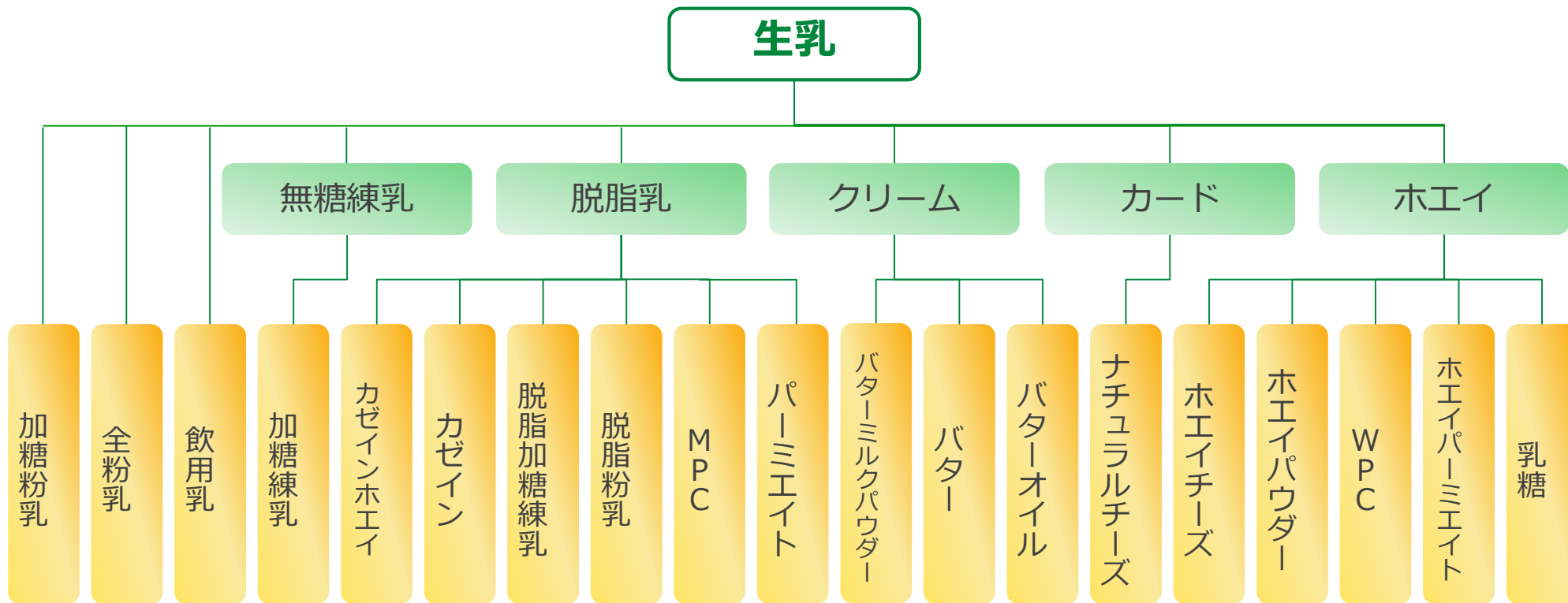
連結売上高 構成比



乳原料・チーズ部門売上高 構成比



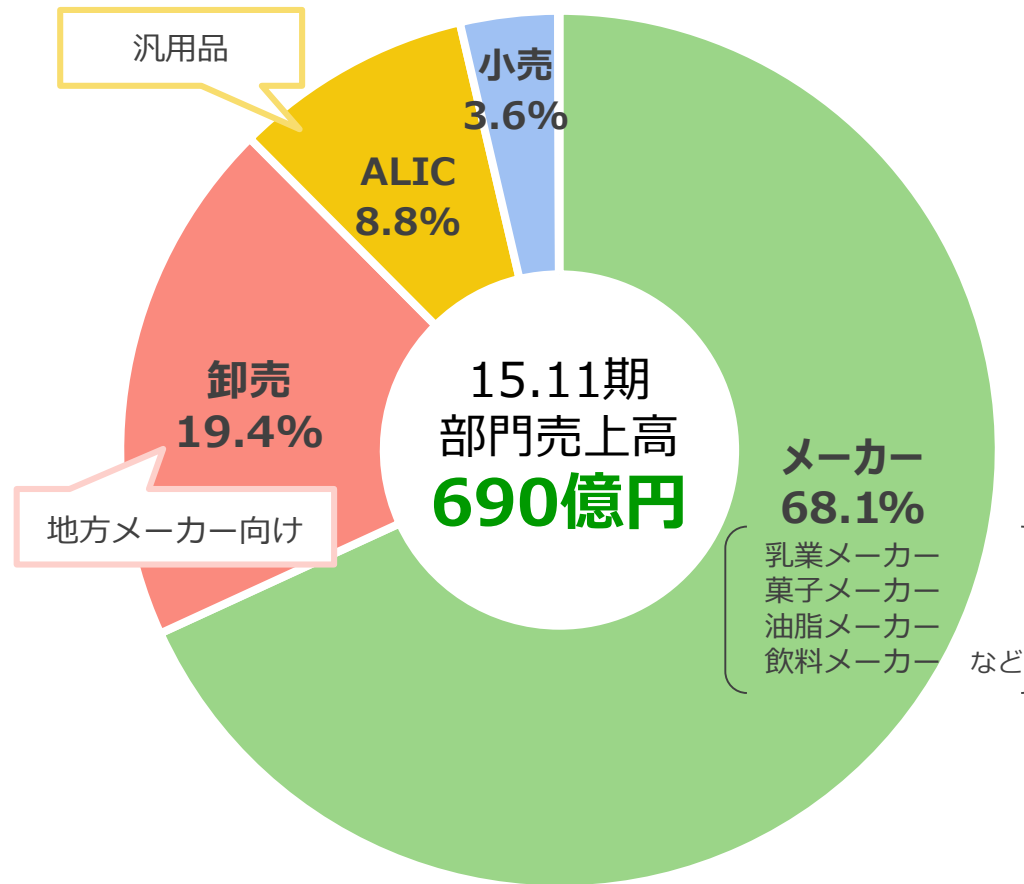
約40種類の汎用乳原料に加え、カスタマイズ品500種類超を取扱う



カスタマイズ品（一次加工品） **500**種類超

大手メーカーから地方メーカー、小売りまで多様な顧客に販売

顧客業種別売上高構成比（乳原料・チーズ部門）



注) ALIC = 農畜産業振興機構

豚肉や生ハムをはじめとする食肉加工品の仕入・販売

食肉



ポークー貫生産システムを
強みとするシーボード社



豚肉



ラクト・ジャパン



- 食肉加工メーカー
(ハム・ソーセージ)
- 外食チェーン
- リパックメーカー

製品



ミラノサラミ



パルマハム

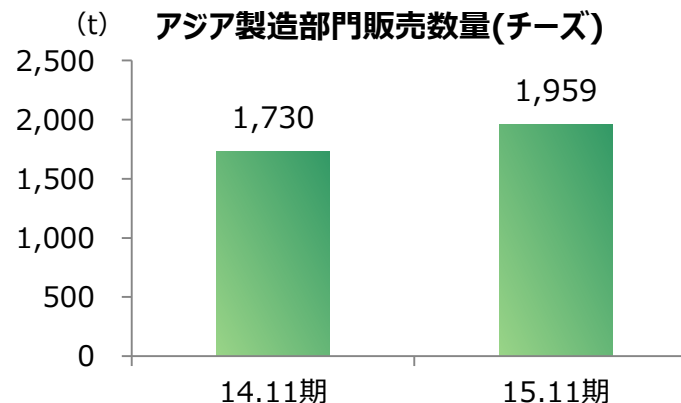


ハモンセラノ

- リパックメーカー
- 小売店

シンガポールを製造拠点に、アジア地域に食材としてチーズの供給も

- 創立時から17年の実績
- アジアに進出する日系メーカーには“日本品質”の乳原料・チーズを提供



注) グラフ数値はプロセスチーズとナチュラルチーズの合計

Lacto Asia Pte Ltd. シンガポール工場



▲チーズの過熱・溶融工程



▲品質検査工程

ブランド



シュレッドチーズ

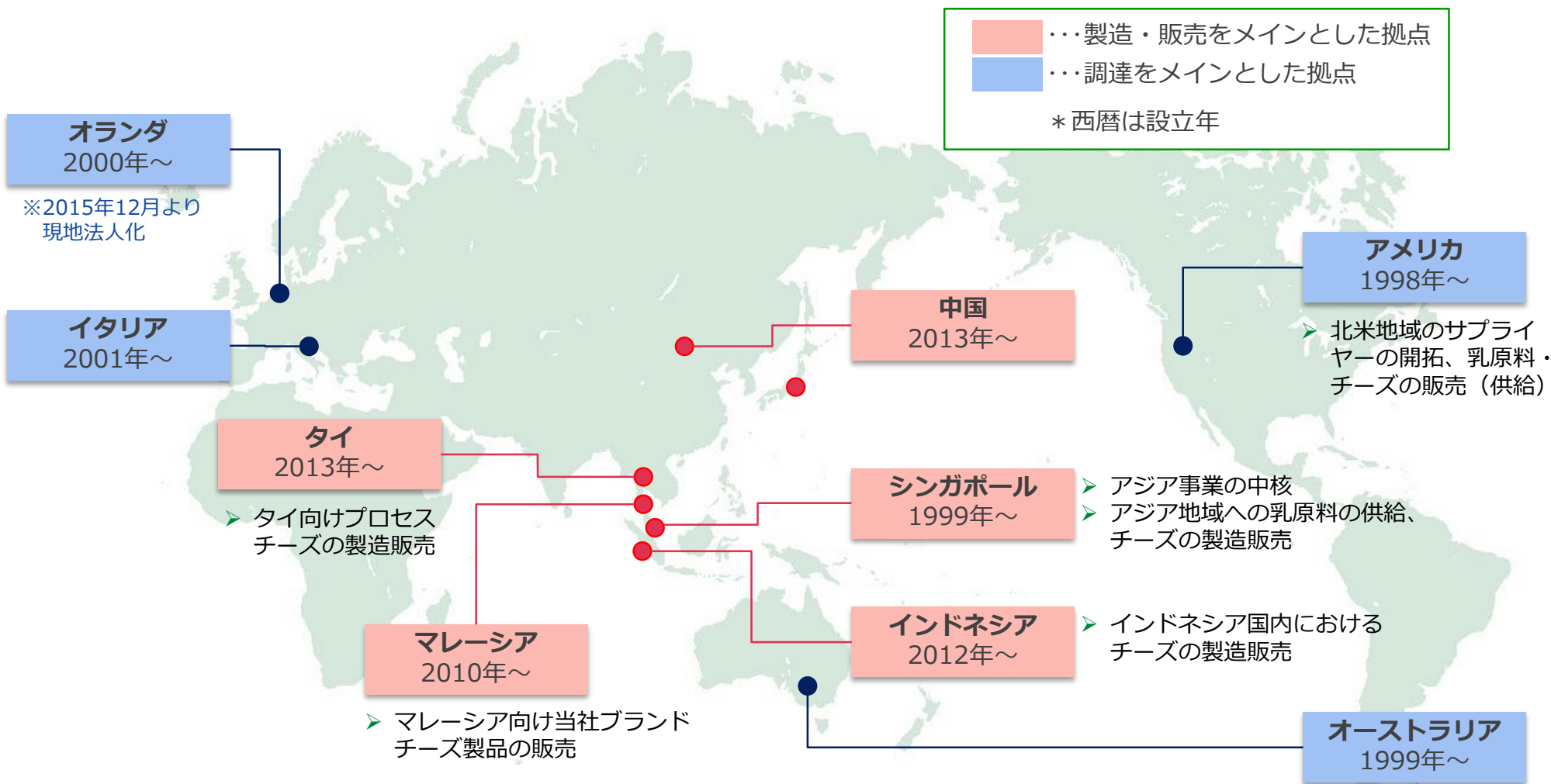


クリームチーズ



リキッドチーズ

調達から販売まで、グローバルにネットワークを展開



シンガポールを製造拠点に、アジア地域でチーズを供給 拠点の拡充と生産体制の強化

シンガポール： アジアの生産拠点 1999年～	プロセスチーズの製造 現地メーカーへの販売 (85%はシンガポール外へ輸出)
マレーシア 2010年～	高品質チーズを現地メーカーへ販売
中国 2015年～	現地の日系メーカー等から二次問屋への卸販売
タイ 2015年～	プロセスチーズの製造・シュレット・販売 今後は乳原料の現地および日系メーカーへの販売も
インドネシア 2015年～	ナチュラルチーズのシュレット・販売

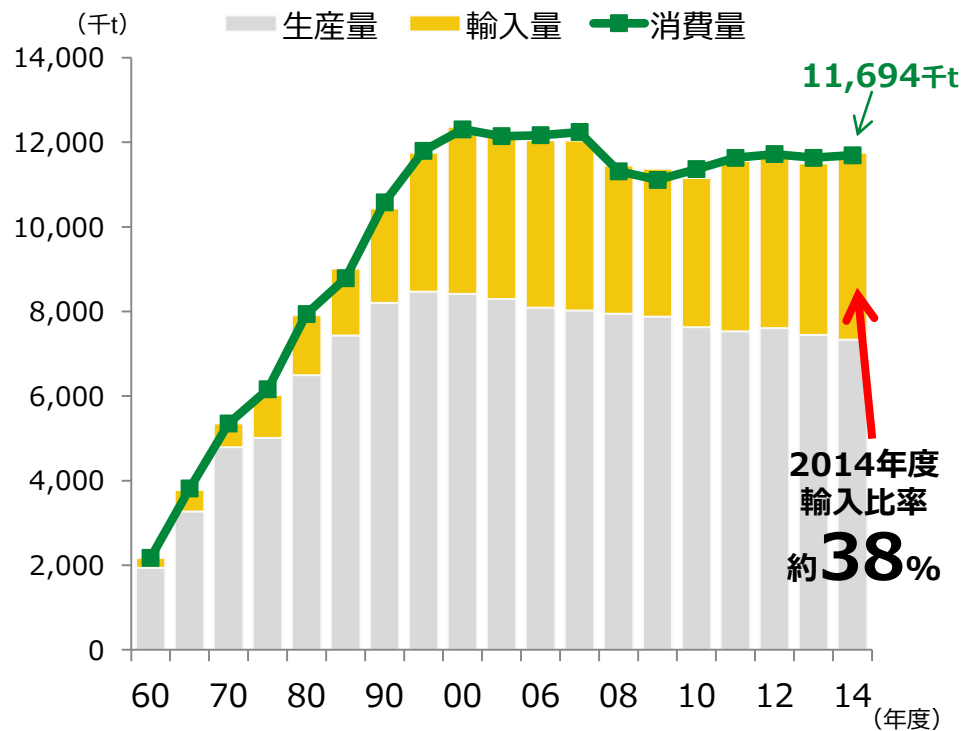


▲タイ工場の外観

注) 年号は各拠点における事業の本格稼働年を示す

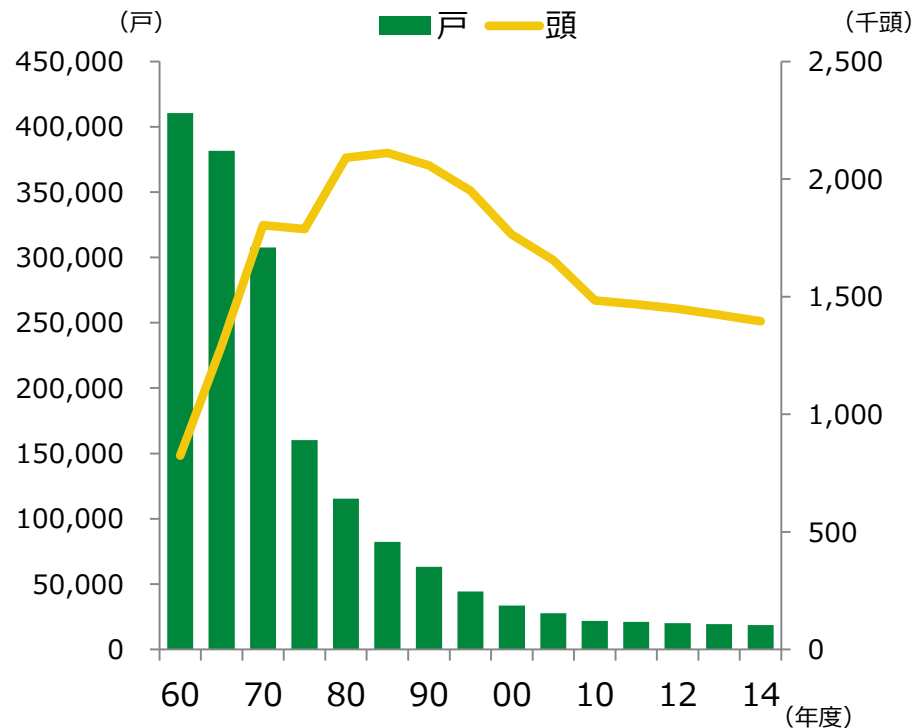
乳製品消費量は高位安定 国内酪農業の生産力低下で輸入原料への需要は高まる傾向

牛乳・乳製品消費量と国内生産・輸入の状況



出所) 農水省「平成26年度食料需給表」(概算値)より
注) データは生乳換算

乳用牛飼養戸数・頭数累年統計



出所) 農水省 畜産統計調査

高い専門性に裏打ちされた情報力・提案力・対応力

- ユーザーニーズに対応したカスタマイズ品を共同開発
- 情報力に基づくサプライヤーとの強固なリレーション
- ユーザーニーズに応じて最適なサプライヤーを選定

系列に縛られない
戦略的なサプライヤー
245社



- 商品開発ニーズに対応したカスタマイズ品を提案
- 海外でしか入手できない多様な乳原料の提案
- 多様な調達先から、必要な原材料を安定供給

商品開発ニーズの高い
国内ユーザー
(乳業、菓子、油脂、飲料メーカー)



ご清聴ありがとうございました

【ご注意事項】

- 本資料には、戦略や見通しなど将来の業績に関する記述が含まれております。これらは現時点における当社の判断に基づくものであり、リスクや不確実性を含んでいます。経営環境の変化など様々な要因により、変更されることがあります。